

出会いから結婚・子育てまでの切れ目ない支援のための 県民意識調査結果（概要版）

1 調査の目的

この調査は、県民の皆様のお考えをお聞きし、出会いから結婚、子育てまでの切れ目のない支援を推進していくうえでの基礎資料とさせていただくことを目的として行うものです。

2 調査の概要

○高知県内全域の18歳以上40歳未満の県民4,000人を対象に実施。

有効回収数：1,143人（郵送回答：832人、WEB回答：311人）

○調査期間：令和4年8月29日（月）～9月12日（月）までの15日間。

3 調査対象者の属性

○性別：男性 429人(37.5%)、女性 708人(61.9%)、その他 4人(0.3%)

○年齢層：18歳～24歳 355人(31.1%)、25歳～29歳 243人(21.3%)、30歳～34歳 286人(25.0%)
35歳～39歳 252人(22.0%)、無回答 7人(0.6%)

4 調査の結果

別紙のとおり

調査結果

【1. 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の環境について】

問1 高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思うか

「どちらともいえない」が37.7%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」26.1%、「ややそう思う」17.4%と続いている。

【2. 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取り組みについて】

問2 『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を実現するために特に力を入れるべき施策

【1位】

「ワークライフバランスの推進」が24.6%と最も高く、次いで「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」20.0%、「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」16.5%と続いている。

【2位】

「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が27.4%と最も高く、次いで「ワークライフバランスの推進」21.1%、「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」15.0%と続いている。

【3位】

「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」が18.0%とわずかな差で最も高く、次いで「ワークライフバランスの推進」17.6%、「妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実」17.1%と続いている。

問3 高知県が少子化対策の取り組みとして行っている各事業に対する関心度

1. 高知家の出会い・結婚・子育て応援団

「関心がない」45.8%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」21.1%、「関心がある」17.8%と続いている。

2. 高知で恋しよ！！応援サイト

「関心がない」59.2%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」16.4%、「関心がある」11.7%と続いている。

3. 高知で恋しよ！！マッチング

「関心がない」62.0%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」16.4%、「関心がある」12.4%と続いている。

4. 高知で恋しよ！！イベント

「関心がない」59.5%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」16.2%、「関心がある」11.9%と続いている。

5. 婚活サポーター（サブサポーター）

「関心がない」65.1%と最も高く、次いで「関心がある」13.4%、「活用したことがない：関心がない」13.3%と続いている。

6. こうち子育て応援の店

「関心がない」が40.9%と最も高く、次いで「関心がある」34.0%、「活用したことがない：関心がある」12.9%と続いている。

7. 高知の子育て応援サイト「こうちプレマnet」

「関心がない」が46.4%と最も高く、次いで「関心がある」32.2%、「活用したことがない：関心がある」10.3%と続いている。

8. 子ども食堂

「活用したことがない：関心がある」が42.5%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がない」19.4%、「関心がない」17.8%、「関心がある」14.8%と続いている。

9. 子育て世代包括支援センター

「関心がない」が37.6%と最も高く、次いで「関心がある」26.3%、「活用したことがない：関心がある」20.7%、「活用したことがない：関心がない」9.7%と続いている。

10. 地域子育て支援センター

「関心がない」が32.3%と最も高く、次いで「活用したことがない：関心がある」22.3%、「関心がある」21.2%、「活用したことがある」11.6%、「活用したことがない：関心がない」11.5%と続いている。

11. ファミリー・サポート・センター

「関心がない」が37.4%と最も高く、次いで「関心がある」27.5%、「活用したことがない：関心がある」21.6%、「活用したことがない：関心がない」11.0%と続いている。

12. 産後ケア事業

「関心がない」が40.2%と最も高く、次いで「関心がある」29.6%、「活用したことがない：関心がある」18.5%、「活用したことがない：関心がない」8.0%と続いている。

問4 「高知で恋しよ！！マッチング」に関心のない理由

「すでに付き合っている人がいるから」が19.8%と最も高く、次いで「結婚するつもりがないから」16.3%、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」15.9%と続いている。
また、「その他」と回答した割合も24.2%と高くなっている。

【3. 出会い・結婚について】

問5 交際相手との出会いを求めるために行いたいこと

「友人や知人、同僚等に紹介を頼む」が42.6%と最も高く、次いで「職場や仕事の関係で出会いを求める」29.4%、「学校・職場以外のサークルやクラブ活動に入ったり、習い事をはじめ」20.5%と続いている。

問6 現在結婚を選択していない理由

【1位】

「適当な相手にまだめぐり合わないから」が26.9%と最も高く、次いで「安定した就労収入でないから」12.4%、「結婚を選択するにはまだ若すぎるから」12.0%と続いている。

【2位】

「安定した就労収入でないから」が13.1%と最も高く、次いで「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」12.2%、「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」11.7%と続いている。

【3位】

「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」が12.4%と最も高く、「結婚を選択する必要性をまだ感じていないから」12.3%、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」12.2%と続いている。上位はほとんど差がない。

【「2」を選択した場合の希望の年齢】

「25歳～28歳」が54.1%と半分以上を占めている。

問7 「適当な相手」に求める条件

【1位】

「価値観が近いこと」が58.4%と半分以上を占めている。

【2位】

「相手が自分の仕事に対して理解・協力してくれること」が18.2%と最も高く、「コミュニケーション力があること」16.2%、「家事や育児へ積極的に取り組むこと」15.9%と続いている。

【3位】

「家事や育児へ積極的に取り組むこと」が17.9%と最も高く、次いで「相手が自分の仕事に対して理解・協力してくれること」14.3%、「共通の趣味があること」13.6%と続いている。

【「3」を選択した場合の希望の年収】

「年収500万円」が38.1%と最も高く、次いで「年収300万円」13.4%、「年収600万円」12.4%と続いている。

問8 出合いや結婚に関する行政の支援で必要と思うもの

【1位】

「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が36.2%と最も高く、次いで「出合いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」22.2%、「出合いを目的としたイベントの充実による出合いの場」10.8%と続いている。

【2位】

「出合いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が19.0%と最も高く、次いで同率で「妊娠・出産の医学的な情報を含むライフプランに関する啓発」と「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が17.1%と高く、「出合いを目的としたイベントの充実による出合いの場」11.5%と続いている。

【3位】

「出合いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が16.6%と最も高く、次いで「妊娠・出産の医学的な情報を含むライフプランに関する啓発」12.3%、同率で「出合いを目的としたイベントの充実による出合いの場」と「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が11.5%と続いている。

【4. 子育てについて】

問9 理想的な子どもの人数

「2人」が50.7%と最も高く、次いで「3人」30.3%、「1人」7.6%と続いている。

問10 現実的に持ちたいと考えている子どもの人数

「2人」が50.1%と最も高く、次いで「3人」18.5%、「1人」15.7%と続いている。

問11 理想の数だけ子どもを持たない理由

【1位】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が53.3%と最も高く、次いで「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」9.2%、「年齢的にこれ以上子どもを持つことは難しいと感じるから」7.7%と続いている。

【2位】

「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」が17.9%と最も高く、次いで「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」16.7%、「職場環境が厳しく、仕事と家庭の両立が難しいから」16.1%と続いている。

【3位】

「将来の社会に漠然とした不安があるから」が19.3%と最も高く、次いで「育児の心理的、肉体的負担に不安があるから」14.9%、「子育て支援サービスが不足しているため、仕事と家庭の両立が難しいから」13.4%と続いている。

問12 理想の数だけ子どもを持てる環境

【1位】

「育児と仕事を両立できる職場環境がある」が17.9%と最も高く、次いで「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」17.6%、「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」14.6%と続いている。

【2位】

「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が21.7%と最も高く、次いで同率で「育児と仕事を両立できる職場環境がある」と「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が14.3%、「妊娠出産に関する経済的支援が充実している」8.6%と続いている。

【3位】

「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が18.2%と最も高く、次いで、「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」12.5%、「育児と仕事を両立できる職場環境がある」11.3%と続いている。

問13 妊娠期から乳幼児期の子育て支援でもっと充実してほしい取り組み

【1位】

「子育ての負担を軽減する家事支援」が16.1%と最も高く、次いで「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」13.4%、「不妊治療に関する経済的支援」12.8%と続いている。

【2位】

「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」が14.9%と最も高く、次いで「子育ての負担を軽減する家事支援」14.3%、「子育て支援センターの土日開所」12.8%と続いている。

【3位】

「父親の家事・育児参画を促進する講座」が13.1%と最も高く、次いで「産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア」11.0%、「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」10.7%と続いている。

問14 子育てに孤立や孤独を感じる方への必要なサポートの場

【1位】

「子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場」が28.0%と最も高く、次いで「同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場」13.7%、「育児サークルなど、子育ての学びと仲間づくりの場」12.5%と続いている。

【2位】

「子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場」が20.5%と最も高く、次いで「同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場」18.2%、「SNSやメール等で24時間いつでも相談できる窓口」11.3%と続いている。

【3位】

「同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場」が15.2%と最も高く、次いで「SNSやメール等で24時間いつでも相談できる窓口」14.6%、「育児サークルなど、子育ての学びと仲間づくりの場」11.6%と続いている。

問15 ファミリー・サポート・センター事業への参加の有無

「現時点ではわからない」が45.8%と最も高く、次いで「参加したいとは思わない」28.3%、「ファミリー・サポート・センターに限らず、地域の子育て援助活動に関わってみたい」11.3%と続いている。

【5. 女性の活躍とワークライフバランスについて】

問16 女性が職場で活躍するのに必要なもの

【1位】

「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が49.7%と最も高く、次いで「看護・介護・保育など働く女性が多い分野や、非正規雇用労働者の賃金を増やすこと」14.3%、「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」10.9%と続いている。

【2位】

「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」が25.5%と最も高く、次いで「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」20.2%、「男女の区別なく、役員や管理職に登用されること」13.2%と続いている。

【3位】

「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」が21.7%と最も高く、次いで「看護・介護・保育など働く女性が多い分野や、非正規雇用労働者の賃金を増やすこと」14.7%、「職場にキャリアアップにつながる人材育成の仕組みが整っていること」12.2%と続いている。

問17 働きやすい職場環境づくりのために必要な支援

【1位】

「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が47.2%と最も高く、次いで「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」21.3%、「時間単位で取得できる年次有給休暇」9.2%と続いている。

【2位】

「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」が25.5%と最も高く、次いで「時間単位で取得できる年次有給休暇」22.7%、「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」15.5%と続いている。

【3位】

「育児休業取得後の復職に向けたサポート」20.1%が最も高く、次いで「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤等）」19.5%、「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」13.5%と続いている。

問18 男性の育児休業取得率の向上のために必要な支援

「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が40.0%と最も高く、次いで「休業中の収入を補填する制度」が34.5%、「上司・管理職等を対象とした研修の開催」8.1%と続いている。

問19 1日あたりの家事・育児にかかる時間

1. 家事・育児に要する時間【平日】

「9時間以上」が19.6%と最も高く、次いで「5時間以上～6時間未満」が12.2%、「6時間以上～7時間未満」が11.9%と続いている。

2. 家事・育児に要する時間【休日】

「9時間以上」が56.8%と最も高く、次いで「8時間以上～9時間未満」が6.8%、「5時間以上～6時間未満」が6.5%と続いている。

問20 男性の家庭や地域への参画を進めるのに必要な取組

「家事・育児参画に関する男性自身の意識を啓発するセミナー」が22.0%と最も高く、次いで「職場で仕事と育児の両立や家事・育児スキルを学ぶことができる場（企業版両親学級等）」18.5%、「父親同士が交流できる仲間づくりの場」14.2%と続いている。